行政評価シート（事務事業評価）

評価年度	１年度

事業名	武田の里サマースクール開催事業	担当課	教育課
細分化した事業名			

1　計画（PLAN）：事務事業の計画的位置づけ

第6次長期総合計画での目的体系	基本方向	将来を担う子どもをのびのび育むまちづくり
	政策	子どもが夢を持ち続けることができる教育の充実
	施策	青少年の健全育成と社会参加
関連する個別計画等	社会教育計画	根拠条例等	

2　計画（PLAN）：事務事業の概要

事業の目的	自然とのふれあいや異年齢の交流と、自然の中での共同生活を体験することにより、きまりや規律を守ること、協力することの大切さを身につけ、青少年の「生きる力」を育成する。
事業の手段	・夏休み期間中に２泊３日の日程で甘利山グリーンロッジを宿泊拠点とし、登山・調理実習・火おこし体験・木工教室・自然環境学習・野外基礎実習・天体観測等の体験学習「甘利山リトルキャンプ」を実施する。
事業の対象	市内小学校４～６年生　２４名

3　実施（DO）：投入費用及び従事職員の推移（インプット＝費用＋作業）

		28 年度	29 年度	30 年度
A　事業費　（千円）		280	263	236
財源内訳	国・県支出金			
	その他（使用料・借入金ほか）			
	一般財源	280	263	236
B　担当職員数（職員 E）　（人）		0.37	0.31	0.31
C　人件費(平均人件費×E)　（千円）		2,536	2,167	2,271
D　総事業費(A+C)　（千円）		2,816	2,430	2,507

主な事業費用の説明	参加者の食糧費、体験教室用の消耗品、講師謝金他

注）平均人件費は各年度決算額(職員給与費)から算出した 28 年度（6,855 千円）,29 年度（6,989 円）, 30 年度（7,325 千円）を使用しています。

4　実施（DO）：事業を数字で分析（アウトプット＝事業量）

		指標名	指標の算出方法	実績値 28 年度	実績値 29 年度	実績値 30 年度
活動指標	1	子ども参加者数（申込者数）	子どもの参加者数（人）	24（29）	21（21）	24（31）
	2					
	3					

妥当性		□ A 妥当である　■ B ほぼ妥当である　□ C 妥当でない
上記活動指標と妥当性の説明	1	学校を通じてチラシを配布しているが、ほぼ毎年定員を上回る申し込みがある。
	2	
	3	

5 評価(CHECK)： 事務事業評価 （アウトカム＝成果・効果）

		指標名	指標の算出方法	実績値		
				28 年度	29 年度	30 年度
成果指標もしくはまちづくり指標	1	参加者の満足度	良かった／参加者数（%）	95.8	94.4	100.0
	2					
	3					

成 果		■ A 上がっている　□ B ほぼ上がっている　□ C 上がっていない
上記指標の妥当性と成果の内容説明	1	参加者アンケートは、参加者、保護者とも満足度が高くなっている。
	2	
	3	

事務事業総合評価	□ A 期待以上に達成　■ B 期待どおりに達成　□ C 期待以下の達成

6 改善(ACTION)：今後の事務事業の展開

今後の事業展開	□ 拡大（コストを集中的に投入する）　■ 一部改善（事務的な改善を実施する） □ 全部改善（内容・手段・コスト・実施主体等の見直しが必要）　□ 縮小（規模・内容を縮小、又は他の事業と統合する） □ 廃止（廃止の検討が必要）

事務事業の改善案

改善の概要・方向性（いつまでに、どういう形で具体化するのか）

令和元年度の改善計画（今後の事業展開説明）

・男女の部屋割りの関係上、定員を２４人としているが３０人までは受入れが可能なため出来る限り希望者を受け入れるように検討する。
・申し込みに QR コードを使う等、現行の窓口やメール以外にも受付手段を増やす。

過去の改善経過

・２１～２４年度は、各公民館において通学期間中に通所合宿モデル事業を実施
・２５年度からは、甘利山グリーンロッジを拠点に自然とのふれあいや異年齢の交流と、自然の中での共同生活を体験することにより、きまりや規律を守ること、協力することの大切さを身につけ、青少年の「生きる力」を育成する、甘利山リトルキャンプ事業を実施。
・５年毎に事業を見直すこととしており、平成２９年度で５年経過したが、人気の事業であるため再度５年延長とした。

評価年度	平成 29 年度	結果(事業展開)	□ 拡大　■ 一部改善　□ 全部改善　□ 縮小　□ 廃止

直近の改善案に対する対応・改善内容

日中働く保護者にも公平に申し込めるよう、窓口での申し込みに加えてメールでの受付方法を追加した。
また、市役所から甘利山までの送迎用バスを用意し、保護者の負担を減らしたことで申込者数の増加に繋がった。

課長所見	定員以上の申し込みがあり、終了後の感想文からも満足度の高い事業であると考える。 自然の中で共同生活を体験することにより、きまりや規律を守ること、協力することの大切さを身につけ、青少年の「生きる力」を育成するという事業の目的はある程度の達成はされていると考える。